

だっこするよ

令和4年2月

社会福祉法人茂原高師保育園

北区立赤羽台保育園

〒115 - 0053 北区赤羽台 1-4-11-105

TEL 3900-0189 FAX 3907-8690

園長 奥戸 昌子



子ども同士で学ぶことの大切さ

先月は、臨時休園にご理解とご協力をいただき心から感謝申し上げます。保護者の皆様には大変ご迷惑をおかけしました。心よりお詫び申し上げます。連日の報道通り、オミクロン株による感染拡大が急増しています。引き続き、職場でPCR検査を受けられる際は、必ずコドモンまたは電話にてご連絡をお願いします。
1、いつからどんな症状があったか 2、何月何日 3、どこで検査を受けるのか 4、検査結果がいつ分るのかをお伝えください。また同居のご家族が濃厚接触者と判明した場合も必ずご連絡をお願いいたします。

そんな状況の中ですが、園では、子どもも大人も穏やかに一年のまとまりの時期を迎え過ぎています。クラスに入るとその子がその子らしく大人に甘えて遊び、生活を楽しみ、励まされながら自立の習慣をゆつくりと身に付けています。コロナ禍だからこそ一人一人の持っている欲求やこだわりを受け止めて、安心を手渡したい、手塩に掛けて育てていきたいものです。保育は、子ども同士、子どもと大人のふれ合いや関わりこそに意味があります。その為、感染を完全に防止することは難しいですが園児及び職員の感染リスクを可能な限り低減させながら園での生活や活動を継続していきます。

異年齢保育について今回もお伝えします。昨今、世界の保育・教育でも異年齢保育が当たり前となってきました。イタリアのレッジョ教育、モンテッソリースクール、フランスのフレネ学校、オランダで始まったイエネプランなど基本的には異年齢で行われています。お互いに支え合うことで育つ力(主体性と強調性)が大きいと評価されていて、日本にもそのような教育システムを取り入れた小学校が生まれています。

そして、児童精神科医の佐々木正美先生の著書「こどもへのまなざし」に子ども同士の大切さが書かれています。「私たちはともすると知識が増えること、何かが出来るようになることを子どもの育ちと思い込んでいるが、それだけが子どもの人格を育てることではない。友だちと多くのことを遊びながら、教え合い、学び合い、子ども自身が自分の年齢相応の社会性を身につけることが大切である。算数、国語が出来ても、メンコが出来てもそれだけではなく、友だちからどれだけ沢山のことを教えられて、友だちにどれだけ多くのことを教えられるかを通して、子どもは、人を信じる感情や自分を信じる機能を大きくしていく…大人には教えてあげることのできないものだと思う…」私もそう思います。異年齢での関わりは、子どもたちに生涯土台となる人格をたく育ててくれるでしょう。

具体的には、子ども間の関係が生まれやすいように保育室にコーナーを作ります。ままごと・人形コーナー、造形・制作コーナー、絵本コーナー、構造遊びコーナー、机上遊びコーナー、そして外遊び、異年齢で散歩に出かけます。今までと同じです。違うのは、やりたい場所に自分より上手な少し上のお兄さん、お姉さんが先生として居ることです。真似をしながら遊びや制作、知への探求が始まるでしょう。そして、得意なことを教えてあげる、自分が小さな子の手本となり、誰かの役に立つことでの喜びや自信を毎日「量」で感じて大きくなって欲しいです。

さて、保育園生活も残りわずかになってきた年長組さんたち…卒園までの時間を大切にしながら楽しく過ごしていきたいと思います。また、在園児のお友達も進級を控えて各年齢に応じて無理のないよう移行の準備を進めていきたいと思います。ご協力宜しくお願いいたします。写真は 大相撲 新春場所 三歳さんたちです。